

# PostfixでSMTP-AUTHを利用する

2016/07/10

FreeBSD 10.2 から 10.3へのOSアップグレードの際にmail/postfixをPortsから再コンパイルしたところSASL関係でエラーが発生しSMTP-AUTHが使えずメール送信ができなくなりました。  
mail/postfix-sasl で入れ替えしたところ使えるようになりました。

2012/05/05

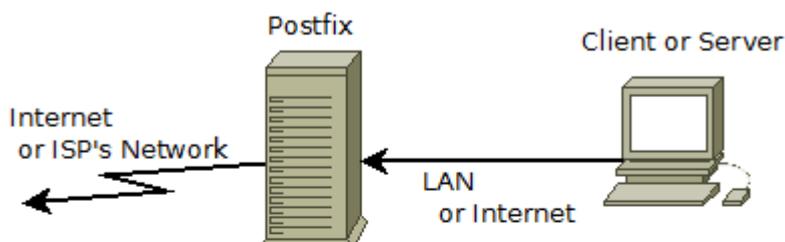
SMTP-AUTHの設定について調べたところ、二つのシチュエーションがごちゃごちゃ入り混じっているの  
で自分なりに整理した。

ちょっと勘違いしていて、ちょっと嵌ったsmtpd\_sasl\_xxx と smtp\_sasl\_xxx で(a)(b)の振る舞いが個別指定できる事がわかったけどちょっと紛らわしい...

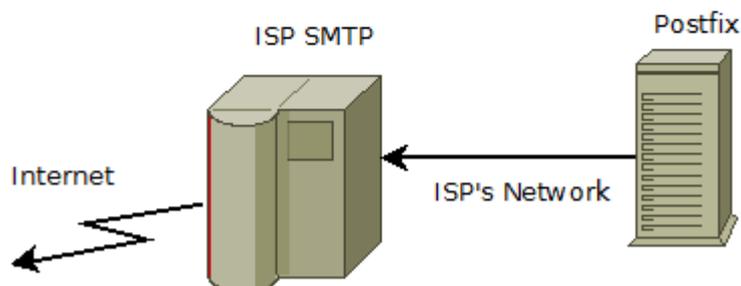
## どのシチュエーションの話か明確にする

SMTP-AUTHを使う事シチュエーションは二つ。

(a) クライアントがPostfix接続時にSMTP-AUTHを使用



(b) PostfixがISPのSMTP接続時にSMTP-AUTHを使用



- (a)クライアントがPostfix接続時にSMTP-AUTHを使用
- (b)PostfixがISPのSMTP接続時にSMTP-AUTHを使用

(a)は許可されたユーザ・プログラムだけにPostfixからのメール送信を許可するのが主目的となる。

(b)はISPの指定するSMTPサーバがSMTP-AUTH対応を必須としている場合に必要となる。

Postfixで(a)のシチュエーションに対しては smtpd\_sasl\_xxxの名前(b)のシチュエーションに対しては smtp\_sasl\_xxxの名前でそれぞれパラメタがありこれでSMTP-AUTHの指定を行う事になる。

# セットアップ

Postfixのセットアップに際してSASL2を有効にしておく。Cyrus-SASL2 も導入しておく。

main.cf に記述するsmtp\_sasl\_xxxx と smtpd\_sasl\_xxxx を間違えないように。

## (a)クライアントがPostfix接続時にSMTP-AUTHを使用

FreeBSD9.0の場合/usr/local/lib/sasl2/postfixsmtpd.conf を以下の内容で作成しておく。

[postfixsmtpd.conf](#)

```
pwcheck_method: auxprop
auxprop_plugin: sasldb
mech_list: cram-md5 digest-md5 plain login
```

アカウント追加は以下のコマンドで実施。

```
# saslpasswd2 -c -u smtp.hogehoge.co.jp user001
```

-u オプションで指定するホスト名は、main.cfに記述した myhostname のホスト名になる。これで user001 の登録が行われる事になる。

アカウントを削除するときは -c オプションの代わりに -d オプションを指定する。

main.cfに以下を追加変更する。

```
smtpd_sasl_auth_enable = yes
smtpd_sasl_security_options = noanonymous
smtpd_sasl_path = postfixsmtpd
smtpd_sasl_local_domain = $myhostname
smtpd_recipient_restrictions = permit_sasl_authenticated,
permit_auth_destination, reject_unauth_destination
```

パラメタ	説明
smtpd_sasl_auth_enable	yes で SMTP-AUTH が有効になる。
smtpd_sasl_security_options	デフォルトでは noanonymous, noplaintext になる。問題ないならこの指定はコメントアウト。 平文パスワードを許す場合は noplaintext があってはまずいでnoanonymousを指定する。
smtpd_sasl_path	SASL2ライブラリで /usr/local/lib/sasl2/postfixsmtpd.conf の定義を使う旨の宣言。
smtpd_sasl_local_domain	認証時のレルムとして myhostname を使う。SASLのアカウントを登録する際の-uオプションで指定するものと同じ。

パラメタ	説明	
smtpd_recipient_restrictions	接続時の制限を指定する。以下の順に検証が行われる。	
	permit_sasl_authenticated	認証に成功した場合のメール送信を許可する。元々期待している動作。
	reject_unauth_destination	このサーバで配送終了とならないドメイン宛メール送信を却下する。不正中継対応。
	permit_auth_destination	このサーバで配送終了となるドメイン宛メール送信を許可する。認証しない接続用。
		特定のアドレスやクライアントからの接続を許したければ以下も追加。
permit_mynetworks	接続元が\$mynetworksにリストアップされたネットワーク・ホストから来たものであれば許可。	

## (b)PostfixがISPのSMTP接続時にSMTP-AUTHを使用

main.cf に以下を追加修正する。

```
mydomain = hogehoge.co.jp
relayhost = [smtp.isp.co.jp]:587
smtp_sasl_auth_enable = yes
smtp_sasl_security_options = noanonymous
smtp_sasl_password_maps = cdb:/usr/local/etc/postfix/relay_passwd
```

パラメタ	説明
mydomain	このメールサーバのドメイン。リレー先によってはここの指定が実在する(インターネットで解決可能な)ドメインでなければならない。
relayhost	リレーするサーバとそのポート。ブランクで囲むとMX記録確認を行わなくなる。
smtp_sasl_auth_enable	yes で SMTP-AUTH が有効になる。
smtp_sasl_security_options	デフォルトでは noanonymous, noplaintext になる。平文パスワード指定のサーバの場合 noplaintext があると平文でパスワードを送れなくなる。
smtp_sasl_password_maps	リレー先SMTPサーバでSMTP-AUTHが必要な場合□SMTPサーバと使用するアカウントのインデクスを指定する。

smtp\_sasl\_password\_mapsにしているインデクスは以下のように作成する。

例えば/usr/local/etc/postfix/relay\_passwd ファイルに

```
[smtp.isp.co.jp]:587    userid:password
```

の記述を行い、以下を実行することでCDB形式のインデクス /usr/local/etc/postfix/relay\_passwd.cdb が作成される。

```
# postmap cdb:/usr/local/etc/postfix/relay_passwd
```

## 再起動

main.cfファイルやインデクスファイルを変更した後は以下を実行しておく。

```
/usr/local/etc/rc.d/postfix reload
```

[技術資料](#), [Postfix](#), [mail](#), [SMTP-AUTH](#)

From:

<https://wiki.hgotoh.jp/> - 努力したWiki

Permanent link:

<https://wiki.hgotoh.jp/documents/mail/mail-010>

Last update: **2023/04/14 02:32**

